

招 聘 研 究 員

氏 名	王 躍 (WANG Yue)
所属機関等	華東師範大学 中国非物質文化遺産保護研究中心
受入期間	2018年11月5日～2018年11月25日
指導教員	小熊 誠 (チューター: 兪鳴奇)
研究課題	契約書に見る民俗現象の調査研究



清代套版簡帖契約書の研究

王 躍

要旨

現在、清代の套版簡帖契約書は、京都大学法学部所蔵の『中国清代民国公私文書コレクション』及び『晋商史料集成』から29点見つかった。数は多くないものの、その種類は「推票」、「担代」、「信底会票」、「帰併」、「借票」、「経賬」、「租房文契」等、多種多様である。特徴はその用紙で、一般的な白い麻紙とは異なり、全て右下に山水・人物図が描かれていることから、「箋譜」の一種ともいえる。本稿は、套版簡帖契約書の形式・種類・文字から、その経済的、歴史的、文化的、民俗的価値を探っていく。

キーワード: 清代、契約書、套版簡帖

「套版簡帖」は「契紙 (契約書用紙)」の一種だが、契紙の中でも右下に山水・人物図が描かれ、多くの場合複数の色で重ね刷りされているものを「套版簡帖契約書」と呼ぶ。現在、整理・出版されている清代契約書は、白い麻紙を使用したものが大半を占め、「套版簡帖」を使用したものは極めて少ない。これまでに京都大学法学部が所蔵する『中国清代民国公私文書コレクション』から17点 (うち1点重複)、『晋商史料集成』から13点、計29点が見つかっており、用途は「推票」、「担代」、「信底会票」、「帰併」、「借票」、「経賬」、「租房文契」等の契約が中心である。これらの「套版簡帖」の基本状況を把握するため、本稿では形式・種類・文字・文献的価値等の観点から分析を行う。不適切な点があれば、ぜひご指摘いただきたい。

I 套版簡帖契約書の形式

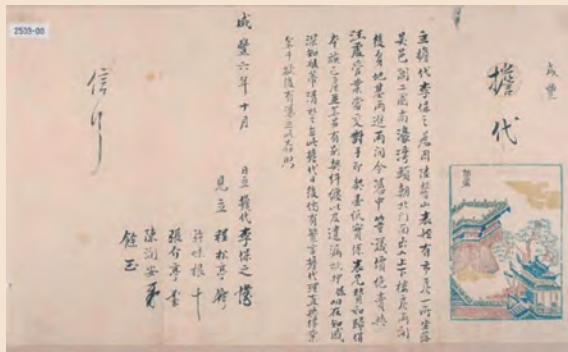
一般的な套版簡帖は、横長の紙を巻き折ったもので、1枚目にのみ「箋紙 (画仙紙)」に描かれるような山水・人物図が、多くの場合複数の色で重ね刷りされている¹⁾。現在見つかった清代の套版簡帖は、横45cm、縦25cmで五つの折り目があるものが多い。右下の山水・人物図の上には、「推票」、「担代」、「信底会票」、「帰併」、「借票」、「経賬」、「租房文契」等、契約書の種類が明記された赤い円形の印が押されている。また、その右側に契約年、中央に具体的な契約内容が記され、左側には一部「信行」、「是実」、「興隆」、「大発」等、縁起の良い言葉が書かれている。次の図1、図2は実際の套版簡帖契約書2点とその内容を記したものである。

II 套版簡帖契約書の種類

『中国清代民国公私文書コレクション』にある16点は、太湖周辺の呉県、長洲県、元和県、太湖庁、嘉定県等で見つかった。一方『晋商史料集成』の13点は、山西省晋中市で見つかっており、山西商人に関するものが多い。次の表は、計29点の契約書の文書名、契約年、場所、当事者の身分等を記載したもので、太湖地区の16点が表1、晋中地区の13点が表2である。

表1および表2から、これらの契約書は「収票」、「約票」、「借票」、「招租」、「収押」、「推票」、「担代」、「信底会票」、「帰併」、「経賬²⁾」、「租房」、「還欠錢文約」、「借券/約」、「会票」等、14種類を中心に、多様な種類があることが分かる。





● 図1『清咸豐六年（1856）李保之担代房院地基絶壳文書』
『中国清代民国公私文書』京都大学法学部図書室所蔵



● 図2『清道光二十八年（1848）陳梅孫同某号立借券』

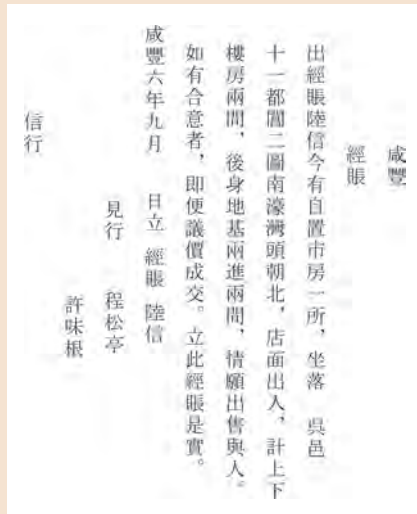


図1の内容は以上のとおり。

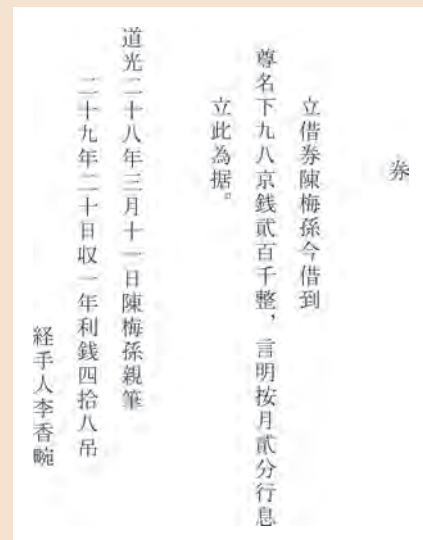


図2の内容は以上のとおり。

● 表1『中国清代民国公私文書コレクション』における套版簡帖契約書

No.	文書名	年	当事者
1	康熙十年張德符等立議単	1671	私人
2	雍正七年席正初立議単	1729	私人
3	雍正九年席世留収房価票	1731	私人
4	雍正九年席廷美立約房価票	1731	私人
5	約票	1731	私人
6	乾隆四年沈錦章立帰房文約	1739	私人
7	乾隆六年正初立借三老伯銀錢票	1741	私人
8	嘉慶十九年田大契立収押契	1814	私人
9	嘉慶二十一年黃孝芳立招租田文契	1816	私人
10	咸豐元年楊惠堂立租房文契	1851	私人
11	咸豐三年姜耀芳立借尤処銀錢票	1853	私人
12	咸豐四年潘謹慎立信底会票	1854	私人
13	咸豐六年李保之担代房院地基絶壳文書	1856	私人
14	咸豐六年陸許氏同孫馨山立推票	1856	私人
15	咸豐六年陸信立壳楼房地基経賬	1856	私人
16	咸豐九年三有堂立帰併銀錢於礼和堂	1859	私人

● 表2『晋商史料集成』における套版簡帖契約書

No.	文書名	年	当事者
1	嘉慶二十三年郝明達給万盛皮局還欠錢文約	1818	私人と機関
2	嘉慶二十三年郭如林給万盛皮局還欠錢文約	1818	私人と機関
3	道光十年徐特達退出玉成義記退約	1830	私人と機関
4	道光十九年山西候補知県賀家麟同周立会票	1839	私人と私人
5	道光二十八年陳梅孫同某号借立借券	1848	私人と機関
6	道光三十年裕興魁記同張人成立借約	1850	私人と機関
7	咸豐三年協泰煙局同義源長宝号立借錢文約（一）	1853	機関と機関
8	咸豐三年協泰煙局同義源長宝号立借錢文約（二）	1853	機関と機関
9	咸豐三年涌泉煙局同永錫号立借銀文約	1853	機関と機関
10	咸豐十一年悦来李記同裕興当立借銀文約	1861	機関と機関
11	光緒三十年涌泉居記同趙常林立借券	1904	私人と機関
12	宣統三年協同慶記同聚生堂立借約	1911	機関と機関
13	宣統四年涌泉居記同五和宝当立借券	1912	機関と機関



III 套版簡帖契約書の文字

契約書は、典型的な手書きの民間文書であるため、使用される文字は平易かつ通俗的で、清代に民間で使用された漢字の特徴を表している。

一つ目の特徴は、一部現代の簡体字と同形の文字が使われている点である。例えば、契約書によく見られる「約」、「樓」、「還」、「銀」は、簡易な「约」、「楼」、「还」、「银」の文字が使われており、漢字の簡体字化が一朝一夕で完成したのではなく、長い時間をかけて必然的に行われたことを十分に説明している。

二つ目は、一部漢字の構成要素（部首）が簡略化されている点である。例えば、「行」は「𠂔」、「間」は「𠂔」、「證」は「証」、「憑」は「憑」と表記されている。

三つ目は、一部漢字の構成要素が漢字の代わりに使用されている点である。例えば、「銀」の代わりに「𠂔」、「兩」の代わりに「𠂔」、「圖」の代わりに「𠂔」が使われている。

四つ目は、多くの例で、繁体字でも簡体字でもない通俗化された字形が使用されている点である。例えば、「處」は「處」、「面」は「面」、「因」は「因」、「經」は「經」、「缺」は「缺」や「缺」、「款」は「款」、「算」は「算」等と書かれている。

五つ目は、複数の漢字を組み合わせた文字が多く見られる点である。例えば「𠂔」は契約を意味する「合同」を意味し、「𠂔」や「𠂔」は漢字の「九」と蘇州號碼の「八」や「九」にあたる「𠂔」や「𠂔」、「𠂔」は漢字の「廿」、蘇州號碼の「𠂔」、漢字の「年」を合わせた文字である。

これらの文書に使われた文字を読み解くことで、漢字データベースに実例を加え、漢字研究に信頼度の高い証拠を提供できる。また、これらの文字を正確に解読することは、その経済的、文化的、歴史的、民俗的価値を研究する上での基礎固めとなる。

IV 套版簡帖契約書の研究価値

清代套版簡帖契約書は、当代の契約書にとって特殊な見本である。時代は康熙帝から宣統帝のもので、特別な用紙を使用し、「招租」、「担代」、「信底会票」、「経賬」を中心に様々な種類がある等、現在見つかった清代の契約書にはほとんどない特徴が見られる。これらは全て契約書研究にとって重要な証拠である。中でも特徴的

なのは、套版簡帖を使用し、右下に山水・人物図が描かれている点で、劉序功はこれを「契約引首図」³⁾と称し、頼少其は「箋譜」⁴⁾と称した（ここでは「箋譜」を使用する）。この29点の箋譜は、8種類が重複しているため、計21種類ある。重複している8種類のうち、「鳳池」、「蘭台」、「雲亭」、「凌煙閣」の4種類は頼少其の『套版簡帖』に記載があるが、残りは『套版簡帖』にも記載がない。これらは箋譜の収集・研究にとっても非常に価値が高く、中国の箋譜研究における重要史料といえる。

具体的な契約内容を見てみると、山西省晋中地区で見つかった契約書は、万盛皮局、玉成義記、裕興魁記、協泰烟局、義源長宝号、涌泉煙局、永錫号、悦来李記、裕興当、涌泉居記、同慶記、聚生堂、五和宝当等、14の店舗・商店名の記載がある。内容はいずれも銀錢の借用に関するもので、当時の当該地域における資本の流通・運営状況を反映しており、経済学分野でもその価値を發揮することができる。このほか、太湖地区の17点は、種類が豊富で、かつ私人間の契約が多いが、晋中地区の13点は主に借用書で、6点は私人と機関、6点は機関間の契約となっており、それぞれ地域の特性を表している。

【注】

- 1) 袁芳荣 (2016)『蠹簡遺韻・古書犀燭記三編』浙江大学出版社 p. 77
- 2) 経賬とは買い手を探すための文書の一種で、「販売したい」という意向を伝えることで、仲介を経た上で実際に話し合いを行い、価格を定めて契約を成立させるというもの。馮学偉 (2013)『契約文書の時序性分類』当代法学 (4) 参照。
- 3) 劉序功は、「契約引首図」を「明・清時代の契約書用紙で、手紙のように折り畳み、1頁目に版画が刷られたものを、近現代において契約引首図と呼ぶ」と定義している。
- 4) 頼少其 (1964)『套版簡帖』上海人民美術出版社

【参考文献】

- 馮学偉『契約文書の時序性分類』当代法学 第4期 2013
京都大学法学部『中国清代民国公私文書コレクション』
頼少其『套版簡帖』上海人民美術出版社 1964
李競輝『片楮製成桃花色 著好妙墨掛玉鉤一箋紙、箋譜の源流と伝承』收藏家 第5期 2018
劉建民『晋商史料集成』88巻 商務印書館 2018
劉序功「契約引首図」安徽省文物誌編輯室編『安徽省文物誌稿』下巻 1993



摘要：清代套版简贴契约，目前所见共 29 件，分别保存于日本京都大学法学部藏《中国清代民国公私文书》和《晋商史料集成》。虽然数量不多，但类型丰富多样，主要有推票、担代、信底会票、归并、借票、经账、租房文契等。其用纸独特，不同于常见的白麻纸，右下角均有山水人物图样，我们沿用“笺谱”的概念称之。本文通过解读其格式、类型与文本文字，为进一步发掘其在经济、历史、文化、民俗等方面的价值奠定基础。

关键词：清代；契约文书；套版简贴

套版简帖，俗称为契纸，在契纸的右下方印有山水人物图样，多为彩色套印，使用此类契纸的契约称为套版简帖契约文书。现整理和出版的契约文书，大多数契约文书使用白麻纸，只有非常少量的契约文书使用套版简帖。就目前所见，日本京都大学法学部藏《中国清代民国公私文书》中有 17 件，其中重复 1 件；《晋商史料集成》中有 13 件，共 29 件，一般用在推票、担代、信底会票、归并、借票、经账、租房文契等文书中。为了更好地掌握这批套版契约的基本情况，本文拟从套版简帖契约的格式、类型、文本文字、文献价值等方面加以分析，不当之处，敬请方家批评指正。

一、套版简帖契约的格式

套版简帖，一般尺幅较宽，折成条幅，只在第一面上刻印如笺纸上的山水人物图样，多彩色套印。¹⁾ 目前所见清代套版简帖长 45 厘米，高 25 厘米，一般有 5 个折痕。右下角为山水人物图样，图样上方盖有圆形红章并写明所载契约类型，如“推票”“担代”“信底会票”“归并”“借票”“经账”“租房文契”等，契约类型的右边一般标明立契年代。中间位置为契约具体内容。左边则部分写有“信行”“是实”“兴隆大发”等吉祥语。为明晰起见，附图版 2 幅及其录文。

二、套版简帖契约的类型

日本京都大学法学部藏《中国清代民国公私文书》的 16 件契约，来自太湖周边的吴县、长洲县、元和县、太湖厅、嘉定县等。《晋商史料集成》中有 13 件，来自山西晋中地区，多晋商活动。这 29 件契约的文书名称、签约时间、地点、双方身份等以下列表展示，太湖地区的 16 件契约信息见表 1，晋中地区的 13 件契约信息见表 2。

从表 1 和表 2 的文书信息可以看出，这一批文书类型多

样，主要有收票、约票、借票、招租、收押、推票、担代、信底会票、归并、经账²⁾、租房、还欠钱文约、借券/约、以及会票等 14 类。

三、清代套版简帖契约文书的文本文字解读

契约文书为典型的民间手书文献，其文本用字从俗从简，呈现了清代民间汉字的使用特点。

第一，部分字形与现行简化字同形。如契约中繁见“約”“樓”“還”“銀”的简化字形

图 1 录文如下：

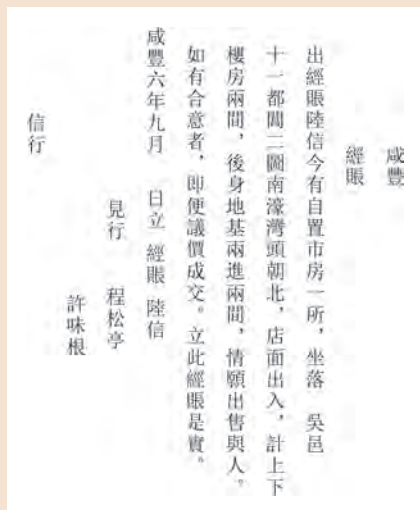
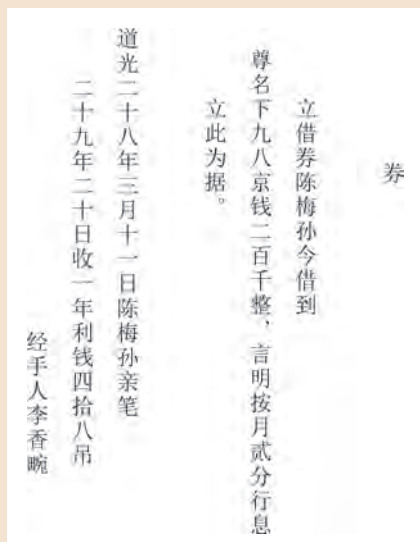


图 2 录文如下：



●表 1.《中国清代民国公司文书》中套版简帖契约文书信息简表

序号	文书名称	时间	交易双方
1	康熙十年张德符等立议单	1671	私人
2	雍正七年席正初立议单	1729	私人
3	雍正九年席世留收房价票	1731	私人
4	雍正九年席廷美立约房价票	1731	私人
5	约票	1731	私人
6	乾隆四年沈锦章立归房文约	1739	私人
7	乾隆六年正初立借三老伯银钱票	1741	私人
8	嘉庆十九年田大契立收押契	1814	私人
9	嘉庆二十一年黄孝芳立招租田文契	1816	私人
10	咸丰元年杨惠堂立租房文契	1851	私人
11	咸丰三年姜耀芳立借尤处银钱票	1853	私人
12	咸丰四年潘谨慎立信底会票	1854	私人
13	咸丰六年李保之担代房院地基绝卖文书	1856	私人
14	咸丰六年陆许氏同孙馨山立推票	1856	私人
15	咸丰六年陆信立卖楼房地基经账	1856	私人
16	咸丰九年三有堂立归并银钱于礼和堂	1859	私人

●表 2.《晋商史料集成》中套版简帖契约文书信息简表

序号	文书名称	时间	交易双方身份
1	嘉庆二十三年郝明达给万盛皮局还欠钱文约	1818	私人与机构
2	嘉庆二十三年郭如林给万盛皮局还欠钱文约	1818	私人与机构
3	道光十年徐特达退出玉成义记退约	1830	私人与机构
4	道光十九年山西候补知县贺家麟同周立会票	1839	私人与私人
5	道光二十八年陈梅孙同某号借立借券	1848	私人与机构
6	道光三十年裕兴魁记同张人成立借约	1850	私人与机构
7	咸丰三年协泰烟局同义源长宝号立借钱文约（一）	1853	机构与机构
8	咸丰三年协泰烟局同义源长宝号立借钱文约（二）	1853	机构与机构
9	咸丰三年涌泉烟局同永锡号立借银文约	1853	机构与机构
10	咸丰十一年悦来李记同裕兴当立借银文约	1861	机构与机构
11	光绪三十年涌泉居记同赵常林立借券	1904	私人与机构
12	宣统三年协同庆记同聚生堂立借约	1911	机构与机构
13	宣统四年涌泉居记同五和宝当立借券	1912	机构与机构

“约”“楼”“还”“银”，有力的说明了汉字的简化不是一蹴而就的结果，而是在汉字发展中长期实践的必然。

第二，汉字的部分构件简化。如“行”作“𠂔”，“間”作“𠂔”，“證”作“𠂔”，“憑”作“𠂔”等。

第三，用部分构件替代整个字形。如“𠂔”代“銀”，“𠂔”代“兩”，“𠂔”代“圖”等。

第四，使用较多的汉字俗写字形，这部分字既不同于规范的繁体字业不同于简化字。如“处”作“𠂔”，“面”作“𠂔”，“因”作“𠂔”，“经”作“𠂔”，“缺”作“𠂔”，“款”作“𠂔”，“算”作“𠂔”等。

第五，合文现象多。如“𠂔”为汉字“合同”的合写文字，“𠂔”和“𠂔”为汉字“九”与苏州花码“八”和“九”，即与“𠂔”和“𠂔”的合写，“𠂔”为汉字“廿”、苏州花码“𠂔”与汉字“年”的合写。

对契约文书汉字的解读既为汉字语料库的建设提供的真实的字样，又为汉字发展演变史的研究提供的可靠的例证。同时，正确解读文本材料夯实了其经济、文化、历史、民俗等价值的研究基础。

四、清代套版简帖契约文书的研究价值

清代套版简帖契约文书为当代契约文书的特殊样张，上起康熙下至宣统，用纸独特，类型多样，特别是招租、担代、信底会票、经账等契约，在目前已出版的清代契约文

书中几乎未见，这都为契约文书的研究提供了重要物证。这一批契约最特别的是使用套版简帖，位于其右下方的山水人物图样，刘序功称之为“契约引首图”³⁾，赖少其称之为“笺谱”⁴⁾，我们暂用“笺谱”。经统计这 29 份套版简帖的笺谱，其中 8 幅重复，共计 21 幅。其中重复的笺谱分别为“凤池”、“兰台”、“云亭”、“凌烟阁”，这四幅皆收在赖少其的《套版简帖》中，其余未见。这对于笺谱的收集研究是非常有价值的，也是我国笺谱研究的重要史料。

从契约具体内容信息来看，山西晋中地区的契约文书中涉及了不少店铺商户，如有万盛皮局、玉成义记、裕兴魁记、协泰烟局、义源长宝号、涌泉烟局、永锡号、悦来李记、裕兴当、涌泉居记、同庆记、聚生堂、五和宝当等 14 家商铺，具体内容均为与之相关的银钱借约，议定程度上反映了当时该地区资本的流通和运作，有利于进一步发挥其在经济学领域的价值。此外，太湖地区的 17 件类型多样，且多为私人之间签订，而山西晋中地区的 13 件契约则以借约为主，6 件为私人与机构之间签订，6 件契约为机构与机构之间签订，反映了契约文书的地域性。

[注]

1) 袁芳荣，《蠹简遗韵·古书犀烛记三编》，浙江大学出版社，2016 年，第 77 页。



- 2) 经账是买卖文书的一种形式，出立经账，表示“欲售与人”的愿望，经过中人的引领，“生面言议”，讲妥价银，便进入立契成交的阶段。参看冯学伟《契约文书的时序性分类》，《当代法学》，2013（4）。
- 3) 刘序功曾界定“契约引首图”的概念：“为明清时代一种特制的契约空白纸，折叠成束状，首页刊有版画，近人称之为契约引首图。”
- 4) 赖少其，《套版简贴》，上海人民美术出版社，1964年。

参考文献：

- [1] 冯学伟，《契约文书的时序性分类》，《当代法学》，2013年第4期。
- [2] 京都大学法学部藏，《中国清代民国公私文书》。
- [3] 赖少其，《套版简贴》，上海：上海人民美术出版社，1964年。
- [4] 李竞辉，《片楮制成桃花色——著好妙墨挂玉钩——笺纸、笺谱的源流与传承》，《收藏家》，2018年第5期。
- [5] 刘建民，《晋商史料集成》，88册，北京：商务印书馆，2018年。
- [6] 刘序功，《契约引首图》，安徽省文物志编辑室编《安徽省文物志稿》下册，1993年。

